

11月3日 逍遙



秋色の御楼門を散歩した先週は、この御楼門にまで薩英戦争時に英国艦隊の砲弾が着弾した(もっとも戦いの方は、薩摩藩、英国ともお互いの力を認識し、むしろその後は両者接近していったのだとか)というお話を聞き、また、今も御楼門部周辺の石垣に無数に遺る西南戦争時の弾痕(こちらの方は、行き着くところまで行き着く徹底した戦いだったのだとか)を実際に間近で見ることができましたが、人間達が遺した、こういった証言の中には、猫のワタシ達にはどうしても理解できない行動パターンも、実は結構あるのです。

ワタシ達・猫は、元々一匹で生きる動物なので、無駄な争いは好みませんし、お互いストレスを溜めず穏やかに暮らせるルールみたいなものがちゃんとあるのです。人間社会でも「人は皆、一人では生きていけないものだから、お互いが平和に共存できる社会を」なんて口ではよく言っているようですが、実際のところ人間の歴史は？ 今の現実は何？ そして地球上の全ての人々が例外なく、思い通りには暮らせなくなった「ウイズ コロナ」の新時代は何？

次回「すず 猫社会のルールを語る、のころ」

「共に生きる」とは、

のころ

